

提言第14号 カテーテルアブレーションに係る死亡事例の分析

事例9

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、WPW症候群（アブレーション治療歴あり）、心室期外収縮、高血圧の患者。BMI不明。
- ・ 発症後 1 週間以内の発作性心房細動に対し、クライオバルーンカテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 左右上下肺静脈に対し、計16 回冷凍凝固を実施した（詳細不明）。
- ・ 帰室時、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）測定不可で、30 秒程度の無呼吸を繰り返し、血圧低下に対し輸液を追加投与した。帰室 3 時間後と帰室5 時間後に嘔吐を認め、帰室 7 時間後に安静保持ができず 穿刺部の枕子に出血を認めた。帰室16 時間後に努力様呼吸となり、心臓超音波検査で心嚢液貯留を認めた。心嚢穿刺中に心停止となり、治療 3 日後に死亡した。
- ・ 死因は、肺静脈破綻疑いによる心タンポナーデ。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。